

『在日朝鮮人 歴史と現在』を読む

退職して1年近くになるが、自分の勉強不足を痛感することが多い。この歳になって「恥じ」をさらすようで恥ずかしいが、これが「現実」なのでしかたがない。現役の頃とは違って、それだけ自由に読みたい本を読んできた結果でもある。昨年4月から意識して、戦後史を中心に歴史関係の本を集中して読んできた。

今回、表題と写真の水野直樹・文京洙著の新書を読んで、朝鮮と日本についての知識不足をあらためて思い知った。本書カバー裏から。「1945年、朝鮮は日本の植民地支配から解放された。2015年は、70年という節目の年になるが、日本と南北朝鮮との間には今なお問題が山積している。在日朝鮮人をめぐる問題もその一つである。植民地期の在日朝鮮人世界の形成、解放から高度成長期以後の世代交代と多様化、そしてグローバル化へと至る現在までを扱う。」

目次は、第1章 定着化と二世の誕生—在日朝鮮人世界の形成、第2章 協和会体制と戦争動員、第3章 戦後在日朝鮮人社会の形成、第4章 二世たちの模索、終章 グローバル化のなかの在日朝鮮人

在日朝鮮人については、大阪市大大学院の頃に思い出がある。学費を稼ぐために浪人時代から多くのアルバイトをやったが、家庭教師は貴重な「仕事場」であった。これについては多くのエピソード（嬉しいこと、辛く悲しいこと）もあるので、またレポートしていきたい。

ある紹介により在日の人たちが多く暮らす大阪生野の焼肉屋さんの息子さん、Kくんを教えることになった。確か桃谷駅近くの商店街だった。Kくんは真面目な性格だが、もっと「やる気」を出すようにしてほしいとの「注文」だったと記憶している。私なりに家庭教師として奮闘努力して、Kくんとも親しくなった。1年ほど経つと、ご家庭の「事情」により残念ながら続けられなくなった。Kくんとの別れが辛かった。

最後の日に、お父さんの焼き肉店でご馳走になった。その時、お父さんから、自らの在日の歴史と暮らし、子どもへの不安と期待をたっぷり聞いた。お酒の勢いもあり、いつになく熱く語られたのが忘れられない。今回「在日朝鮮人」の本を読み、複雑かつ苦難の歴史の重さを感じさせられた。とりわけ戦後日本を考えるうえでも、在日朝鮮人の歴史をもっと学んでいきたい。



(2015年3月20日)